

[調査会 NEWS 336] (18.2.3)

またも辛光洙？

荒木和博

昨日のNHKニュースや「クローズアップ現代」ではまた辛光洙や西新井事件のスパイ「朴」の拉致への関与、あるいは朝鮮語を教えていたとの話がでていました。私にはこの話はどう考えても全体像としてのつじつまが合わないと思うのですが、それについてはあらためて書きます。ともかく情報の混乱を招かないためには、5人がマスコミの取材を受けてこのディテールを語り、真相をおおやけにすることだと思います。

しかし、それ以上に重要なのは明日からはじまる日朝協議における取扱いの問題です。そこでの拉致問題に関する協議の焦点が辛光洙や「朴」のことに終始するようになってはならないということです。辛光洙や「朴」の問題での北朝鮮の「譲歩」は、ゼロとは言いませんが、真相究明に多少の寄与はするものの、拉致被害者の「救出」にはほとんど関係ありません。したがって辛光洙の問題に目を奪われてはいけません。

絶対に忘れてはならないことは、私たちが国を挙げてやらなければならないのは拉致被害者全員の救出であり、真相究明の大部分はその後の問題だということです。この「大部分」以外というのは現在の被害者の状況や居場所の確認につながる情報で、特定失踪者の真相究明に関する情報もこれに入ります。いずれにしても、今いる被害者をどう助け出すかというのが目標なのだということです。北朝鮮当局が出してくる情報をあてもない、こうでもないと言って時間をつぶすのは、軍事用語で言う「遅滞戦術」に載せられることになります。

自国民の命を奪うことですら何とも思わない独裁政権から拉致された同胞を奪い返すにはどうすべきかということをもまず考えなければなりません。そしてそれに正面から取り組まなければまた次の（それは拉致とも限りませんし、北朝鮮によるものとも限りません）国家犯罪による被害者が出る、そういう次元の話であることを理解する必要があると思います。

もう一度書きますが、辛光洙や「朴」のことがどう動こうと、それは拉致被害者救出には補助的な役割しか果たさないことを、ぜひご理解いただきたく思います。その上で報道関係者の皆さんも国民の皆さんも、日朝協議がどう進むのかを注視していただきたいと切に希望する次第です。

戦略情報研究所主催講演会

2月27日（金）18：30～ 佐藤守・元空将（空軍少将）

「自衛隊による拉致被害者救出のシミュレーション」

佐藤元空将の略歴等は戦略情報研究所のホームページかご本人のブログ（下記）をご覧ください。

<http://d.hatena.ne.jp/satoumamoru/>

参加費 2000 円（戦略情報研究所会員の方は講演会参加券がご利用になれます。参加券がない場合は一般参加費を頂戴します。）

予約等はありません。直接会場においで下さい。

会場：UIゼンセン会館 2 階会議室（千代田区九段南 4-8-16 tel03-3288-3549）

市ヶ谷駅下車 3 分 日本棋院斜向い（地図は下記をご覧ください。）

<http://www.uizensen.or.jp/doc/uizensen/access.html>

[調査会 NEWS 337] (18.2.6)

定例記者会見のお知らせ

2月の記者会見は日朝交渉の関係等もあり、少々早めに行います。よろしくお願ひします。

日時 2月9日(木) 14:00 ~

場所 調査会事務所(3F)

内容 ゼロ番台リスト追加発表

日朝交渉について

その他

戦略情報研究所主催講演会

前号のお知らせで日にちが間違っておりました。あらためてお知らせします。

2月24日(金) 18:30 ~ 佐藤守・元空将(空軍少将)

「自衛隊による拉致被害者救出のシミュレーション」

佐藤元空将の略歴等は戦略情報研究所のホームページかご本人のブログ(下記)をご覧ください。

<http://d.hatena.ne.jp/satoumamoru/>

参加費 2000円(戦略情報研究所会員の方は講演会参加券がご利用になれます。参加券がない場合は一般参加費を頂戴します。)

予約等はありません。直接会場においで下さい。

会場: UIゼンセン会館2階会議室(千代田区九段南4-8-16 tel03-3288-3549)

市ヶ谷駅下車3分 日本棋院斜向い(地図は下記をご覧ください。)

<http://www.uizensen.or.jp/doc/uizensen/access.html>

[調査会 NEWS 338] (18.2.8)

報道関係各位 明日の記者会見について

明日の記者会見（2月定例）は予定通り 14:00 から調査会事務所 3 階で開催しますが、通常通り同日 10:30 頃より同じ 3 階に写真の掲示と資料の配付を行います。なお、あくまで参考資料としてですので、実際の報道は記者会見開始以後にお願いします。

今回の発表は先日臨時の会見で出ました関谷俊子さんと一緒に失踪したお二人についてこれまでの非公開から公開に切り替えるものです。当日はご家族も会見にご参加される予定です。

また、会見では今回の日朝協議に関する見解の発表も行います。

[調査会 NEWS 339](18.2.9)

ゼロ番台 22 次リスト

調査会では本日記者会見を行い、以下のお 2 人について発表を行いました。

失踪者	遠山常子（とおやま つねこ）
生年月日	1957 年（昭和 32 年）6 月 22 日
失踪日	1974 年（昭和 49 年）7 月 11 日
失踪当時の年齢	17 歳
失踪当時の職業	県立高校学生 夜間部・蘇我のスーパー・ マーケット勤務
失踪当時の住所	千葉市寒川にある社員寮
失踪場所	千葉市内

失踪者	峰島英雄（みねしま ひでお）
生年月日	1952 年（昭和 27 年）9 月 2 日
失踪日	1974 年（昭和 49 年）7 月 11 日
失踪当時の年齢	21 歳
失踪当時の職業	会社員（千葉市内の電話工事会社）
失踪当時の住所	千葉市轟
失踪場所	千葉市内

失踪の経過

遠山常子さんと、幼馴染の友人女性である関谷俊子さん（既に公開済み）ならびに関谷俊子さんの親戚である峰島英雄さんの 3 人は、峰島英雄さんの兄妹が勤務する千葉市内の飲食店で食事をした。峰島英雄さんが、「二人を家まで送ってくる。戻ってくるから、食事を用意しておいてくれ」と兄妹に言い残し、車で飲食店を出たまま三人とも失踪。峰島英雄さんの車（赤いマーク）も未発見。失踪の当日は、関谷俊子さんの引越しの日だった。引越しが終わったあとに、三人で飲食店に食事に来た模様。失踪以降、何ら手がかりとなるものは無かった。関谷俊子さんの引越先は、千葉市道場。

本件を 1000 番台リストとしない理由

1 月 23 日の「産経新聞」の記事が本失踪事件を「拉致の疑い」とした根拠は、藤田進さんの拉致に関与した男性の証言をきっかけとした警察の捜査に基づくものである。事実、調査会に対して、藤田進さんの拉致を手伝わされたと言った男性は「藤田さんの事件（1976 年）の 2 年後ぐらいに二人の女性の拉致も手伝わされたが、顔を見ていないので誰だか分からない」と証言していた。このたびの「産経新聞」の報道の経過について調査会では詳細に把握していないが、当初より男性の証言内容と本件失踪事件とは 4 年近く食い違うことと、男性が二人の女性の顔を見ていないという証言だったため、慎重な調査を進めていたものである。「産経新聞」の記事でもこれらの点は明らかにされていない。

したがって、前回の記者会見でも述べたように、本件については、今後の警察当局による捜査の行方を見守りつつ、さらに調査会独自の調査を進め、新たな事実が判明した際に1000番台リストとすることを検討したい。

補足 関谷俊子さんと峰島英雄さんとの親戚関係について

関谷俊子さんの実姉である峰島栄子さんが、峰島英雄さんの実兄と結婚。

日朝交渉についてのコメント

本日の記者会見で以下のコメントを発表しました。

平成 18 年 2 月 9 日

日朝協議について

特定失踪者問題調査会

代表 荒木和博

2月4日から開催された日朝協議は昨日終了した。結果については既に報道されている通りで、何の進展も見られなかった。その点は残念だが、あくまで「拉致問題の解決なくして国交正常化なし」の原則を日本側が貫いたことは、北朝鮮側には重いプレッシャーとなっているはずであり、評価しうらと思う。代表団をはじめとする関係者各位の努力に敬意を表する次第である。

また、年末年始の辛光洙や西新井事件の「朴」をめぐる情報が拉致問題の幕引きにつながろうとする動きではないかとの懸念も、まだ安心はできないものとりあえず払拭されたことは幸いであった。これには情報が流れた後の報道関係者各位の行動も貢献しているものと思われる。

ただ、今回のことで、より明らかになったのは、交渉のみに頼るやり方では、外務省などの当事者がいくら努力したところで、問題は永遠に解決しないということである。今回辛光洙などの話が動かなかったことには北朝鮮内部で金正日のリーダーシップがさらに低下していることの影響があることが明らかであり、北朝鮮の体制自体が当事者能力を喪失しかかっているのではないかと思われる。

政府は「粘り強く」などという言葉で思考停止に陥るのではなく、実効性のある新たな手段を考え、講じていくべきである。経済制裁はもちろんだが、拉致被害者の居住地の特定やアクセス、可能な人については脱出させる等、具体的な被害者救出のための行動を進めることを求めるものである。優先させるべきは「救出」であって、「真相究明」はその次に来るべきことだ。内閣に設けられた専門幹事会にも防衛庁をはじめすべての省庁が加わることになり、そのための体制は整備されている。また、それらが動いてこそ外交交渉も効果を挙げ得るものと確信する。ただでさえ極寒の北朝鮮で、逡巡しているうちに被害

者が死亡してしまったなどという結果に陥った場合、責任者の辞職などで責任の負える問題でないことだけは明らかである。

なお、今回の交渉では特定失踪者の問題についても取り上げられたと聞いているが、誰について、どのように取り上げ、相手がどう反応したのかについては、報告をしていただきたいと希望する。古川了子さんの拉致認定を求める訴訟で被告である政府側が一環して「認定してもしなくてもちゃんとやっている」と主張しているのだから、何らかの形で説明責任を果たすよう求める次第である。

以上

[調査会 NEWS 340] (18.2.10)

次はベビーシッター？

荒木和博

今度は西新井事件の「朴」が蓮池さん夫妻の子供さんたちの教育係をしていたなどの情報が出てきました。不謹慎ながら、「次はベビーシッターか」と言いたくなります。

もちろん、この情報を頭から嘘だと否定できる訳ではありません。しかし、仮に事実だったとしても、拉致問題の全体像から言えば、ほとんどどうでもいいことだと思います。警察にすれば立件できるかどうかは大きな問題でしょうが、救出することにはあまり関係ありません。優先順位は北朝鮮に残っている拉致被害者の救出が一番であり、話合いが平行線なのですから、それ以外の方法を使うしかないに決まっています。

年末年始に行われてきた情報操作には、この問題の本質から目を逸らさせようという意図を感じました。結果的には日本国民はそれほど愚かではありませんでしたが、今後も注意が必要でしょう。

ところで、今回の日朝協議で特定失踪者について「詳しい資料があれば調べる」と北朝鮮側が言ったとか。これまた笑い話の類いですが、これにはおそらく向こうの事情がからんでいるのだと思います。

というのは、9.17 小泉訪朝で「5 人生存、8 人死亡」を北朝鮮が言ってきた後、9 月末から 10 月初めにかけて、外務省の調査団が北朝鮮を訪れています。そのとき、調査団は案内された場所で「市川修一さんと増元み子さんを見た」という古老(?)に会うのです。その古老は「(市川さんは)電話機の修理をしていた」と話します。

もちろん、これはすべて作り話ですが、なぜその「俳優」が電話機の修理の話を出したかと言えば、市川さんが電電公社(現在の NTT)の職員だったからです。その情報をもとに「電話の仕事をしていたのだから、電話機を修理していたことにすればもっともらしく聞こえるだろう」というのが北朝鮮当局の発想でした。残念ながら市川さんは技術系ではなく、事務系だったのですが。

これは、交渉当局者が工作機関に情報提供を求められないという、北朝鮮内部の力関係のなせる技でしょう。下手に聞けばやぶ蛇になって自分の地位が脅かされかねない。北朝鮮の中は情報にアクセスし難いため、日本に出ている情報をつかって、それを基礎に下手な芝居を打つので、すぐに底が割れてしまうという構造だと思います。

とにかく、この話につきあわされて時間稼ぎに利用されないようにすべきです。何度も言っていますが、本質を見極めた対応が必要でしょう。

[調査会 NEWS 341] (18.2.13)

公開失踪者 1 名の所在確認

公開失踪者（ゼロ番台リスト）のお 1 人で、昭和 40（1965）年に失踪された松沢利江さんの所在が確認されました。関西地方にお住いで、すでにご家族が現地でお会いになりました。これまでご協力いただいた皆様に御礼申し上げます。なお、今後はプライバシーの尊重を第一にして対応したいと思いますのでご協力をよろしくお願いします。

これにより、現在の公開者は 1 人減って 253 名になります。

現時点での公開者	253 名（うち 1000 番台リスト 34 名、ゼロ番台リスト 219 名）
これまでの公開者	260 名（うち国内での消息が確認された人 7 名-生存 6 名死亡 1 名）
非公開者約	200 名（うち国内での消息が確認された人 10 名-生存 9 名死亡 1 名）

[調査会 NEWS 342] (18.2.15)

「情報があれば特定失踪者の調査をする」との北朝鮮の対応について

特定失踪者問題調査会代表 荒木和博

去る2月4日から8日にかけて行われた日朝協議で、北朝鮮側は「日本からの関連情報提供があれば調査する」と回答したと報じられている。これについて、以下の通り見解を明らかにしておきたい。

- 1、「詳しい情報提供」などというのは、誘拐犯が警察に「被害者の資料をよこせ」と言うのと同じことで、全く論評に値するものではない。情報提供を求めているのはこちらであって、犯罪者である北朝鮮当局が情報提供を求めるなど言語道断である。
- 2、ただし、話を聞きたいと言うことで宋日昊が東京を訪れるなら私たちとしても時間調整をする用意はある。また、自由に北朝鮮内部を調査できるのであればこちらで調査団を組織して北朝鮮に行くことも検討する。
- 3、そもそも、1000番台リストは私たちの調査過程における一つの目安であって、実際にはゼロ番台リストでも、2000番台リスト（非公開）でも、あるいは私たちのリストにない人でも拉致被害者は存在する。政府認定者の次は1000番台リスト、その次はゼロ番台リストということではなく、あくまで拉致被害者はすべてが同様に取り扱いわれ、救出されなければならない。
- 4、今回のことで注目されるのは、北朝鮮側がこれまで認めた13人以外に拉致被害者がいることを事実上認めたことだけである。ボールはあくまで北朝鮮側にあるのであって、時間稼ぎをすることは北朝鮮側にとって決して利益になるものではない。もちろん、私たちは北朝鮮当局者に利益を与えるつもりは毛頭ないが、時間をかければかけるほど自らの立場が窮地に追い込まれていくことを当局者は理解しておいた方がいいだろう。

北朝鮮当局は今回の日朝協議でも「日本は840万人を強制連行し、100万人を虐殺し、20万人を慰安婦にした」という荒唐無稽な数字を繰り返し持ち出している。しかし、それを本気で信じているのなら、自分たちが相手にしているのが、まさにその日本人であるということをもう少し深刻に考えた方がいいだろう。忍耐にも限度があるのである。

以上

[調査会 NEWS 343] (18.2.16)

静岡県知事と静岡県警本部長との面会

「河嶋功一君を探す会」のメンバーの尽力によって、2月13日に静岡県に関わる特定失踪者ご家族(4家族、7名)と、石川嘉延・静岡県知事ならびに五十嵐県警本部長との面会が実現しました。

石川知事からは、「県としても特定失踪者の方の情報を収集し、県内に広報をしていきたい」との回答がありました。そして、五十嵐本部長からは「捜査を全力で実施し、ご家族になんらかの情報を提供できるよう努力したい」との回答がありました。

静岡県はこれまで拉致とは無縁の県と思われてきましたが、拉致犯人である辛光珠の生まれ育った県でもあり、河嶋功一さんの実家や大屋敷正行さんの失踪現場が静岡県でもあることから、今後の警察当局の捜査の結果が注目されます。

静岡県に関わる特定失踪者のご家族は12家族で、そのうち県内に居住は10家族で、県外に居住のご家族が2家族です。うち非公開のご家族が4家族です。

特定失踪者問題調査会としては、今後、こうした都道府県知事ならびに都道府県警本部長と、特定失踪者ご家族との面会を全国的に展開していき、都道府県単位での特定失踪者問題への取り組みの強化を求めていく方針です。

以下は、石川県知事への要望書です。

石川嘉延静岡県知事殿

平成18年2月13日

静岡県に関わる特定失踪者問題についての要望

県知事におかれましては、県内における特定失踪者問題に関しまして、ご尽力を賜り誠にありがとうございます。本件が2003年1月から始まり、既に3年を経過致しました。関係当局のご尽力にもかかわらず、県内におきましては、河嶋功一ならびに大屋敷正行の二名を除いては、ほとんど進展がないのが現状です。

特定失踪者の家族も高齢化しており、早急な解決が望まれます。

つきましては、下記の三点についてご検討いただきたく、ここに要望いたします。

1. 特定失踪者に関する情報収集等の調査について協力、支援をいただきたいこと。

2. 特定失踪者問題に関する広報や特定失踪者の家族や支援団体への協力、支援をいただきたいこと。

3. 上記について県内の関係自治体への協力依頼をしていただきたいこと。

以上

静岡県に関わる特定失踪者家族一同

上田俊一 (上田俊二)

太湖弥代枝 (高橋太一)

河嶋孝浩 (河嶋功一)

酒井とよみ (鈴木清江)

園部今子 (坂下喜美夫)

高見昭 (高見到)

橘哲夫 (橘邦彦)

山口幸子 (大屋敷正行)

非公開の家族 (4名)

[調査会 NEWS 344] (18.2.23)

スパイ「朴」の逮捕状

荒木和博

今日、警察当局が辛光洙と西新井事件のスパイ「朴」の逮捕状を請求するとのニュースが出ています。私は年末年始から出ている情報そのものについては懐疑的ですが、この2人が北朝鮮の работникであることは明らかなのですから、逮捕状請求が色々な意味で一つの前進であることは間違いないと思います。

ただし、注意しておかなければならないのは、このこと自体は「被害者救出」の前進ではないということです。逮捕状をとったところで日本の警察が北朝鮮に乗込んで辛光洙や「朴」を逮捕して連れてきて、その証言によって拉致被害者が帰ってくるという可能性はほぼゼロと言っていいでしょう。しかも、彼らがかかわったと報道された事件の中で、帰ってきていないのは横田めぐみさんと小住健蔵さんの2人だけです。

あらためてご理解いただきたいのですが、最優先されるべきは拉致被害者の救出であり、事件自体の真相究明はその後の問題だということです。今真相を究明すべきことがあるとすれば、拉致被害者が北朝鮮のどこにいて、どうしているかということに尽きると思います。

一般の方々の中で、警察が拉致問題を解決できると勘違いしている方がおられますが、警察が果たせる機能は拉致問題解決の一部でしかありません。事件捜査として成り立つものを調べるのが警察の基本であり、いわんや北朝鮮にいる人を助け出すことは警察の仕事ではありません。

曾我ひとみさんの拉致も警察は気付いていませんでした。そして曾我さんが拉致だと分かったときも、気付かなかったことに対して警察庁長官も、新潟県警本部長も、誰も責任をとりませんでした。つまり、警察には（他の機関も同様ですが）誰が拉致被害者であるかを調べる責任もないということです。

そして、外交交渉だけで拉致が解決しないことは先日の日朝協議でも明らかです。警察の捜査 認定 外交交渉という今のやり方と別のやり方を、少なくとも現行の対応に並行させない限り、拉致被害者は北朝鮮でその命を終えることとなります。

そうなったとき、誰がどう責任をとるのか。現行のやり方だけであれば、官邸と警察、外務省が取られるのでしょうが、こんなことをしているうちに被害者が亡くなりでもしたら、その責任は議員バッチを外したり、役所を辞めたりすることですむものでないことはいまでもありません。もちろん、救出運動に携っている私たちも相応の責任を負わなければならないでしょうが。

年初の警察庁長官の言葉にもあるように、警察が今、拉致問題で積極的に取り組もうとしていることは明らかです。ならば、過去の事件もさることながら、現在有害行為を行っている作業者や日本人の協力者を1人でも多く摘発してもらいたいと思います。国民の安全を守るという意味では辛光洙や「朴」の逮捕状以上に効果があると思います。

ともかく、何度でも言いますが、優先されるべきは「全員の救出」であることを、1人でも多くの方がご理解下さいますよう、お願いする次第です。

[調査会 NEWS 345] (18.2.26)

相次ぐ「不審な情報」

荒木和博

今度は田口八重子さんの拉致にまで辛光洙が関わっていたとの話が出てきました。その前は、辛光洙の配下で働いたスタッフが79年に東京で辛光洙に会っていたとの報道で、これはソウル地裁の判決文にある76年9月～80年3月に平壤で密封教育を受けていたという内容を否定する情報として流されました。

これまでも何度か書いてきましたが、昨年末以来報道されてきた辛光洙と「朴」に関する情報は極めて怪しげなものばかりです。配下のスタッフが辛光洙に会ったという情報も、このことに詳しい（そのスタッフに直接会ったことある）人物は「絶対にありえない」と否定しています。

下司の勘ぐりと言われるかも知れませんが、これまでの経緯や昨今の情報からあらためて想像すると、私は次のようなことが行われているのではないかと感じています。

横田めぐみさんか誰か、拉致被害者を北朝鮮が返す。その代わり日本側は拉致事件の実行犯を辛光洙や「朴」らに限定する。それによって拉致事件の進展を印象づけるとともに、北朝鮮による主権侵害という、拉致事件の本質を隠す。これは北朝鮮の犯罪行為を過小に見せるとともに、日本政府の不作為も隠すことになる。あるいはこのとき裏でカネが動くのかも知れない。

そして、一部の被害者が帰国した場合、4年前と同じようにマスコミは帰国した人だけを追い回すことになる。国民の関心も帰国した人だけに注がれるために、それが家族会の被害者であれば家族会を分断し、運動自体にブレーキをかけることができる。当然「小泉政権はよくやったではないか」という世論が起きるため、第2次小泉訪朝のときの「家族会バッシング」のように、それを不満とする人たちは家族であろうが一般の支援者であろうが分断され、帰国できた人以外の全ての拉致被害者のことがそれによって事実上棚上げされる。

「誰か被害者を返して」というのはついこの間思いついたことなのですが、こう考えると色々なことがつながります。しかし、こういうことが動いているのだとすれば、表面上を繕って本質を覆い隠そうとするものであり、到底許されるべきことではありません。辛光洙や「朴」がスーパーマンのごとく何でもやるなどということはありません、そんなことは北朝鮮のやってきたことをある程度体系的に見ていれば誰にでも分かるはずのことです。

今月の月刊『文藝春秋』に元安企部捜査官の高洙吉氏が「辛光洙『取調べ捜査官』独占手記」と題して書いていますが、高氏は辛光洙に限らず安企部が日本の捜査当局に自分た

ちの得た日本人拉致の情報はすべて提供したが、捜査当局は拉致に非常に懐疑的だったと書いています。この種の話は私自身他の人からも聞いていますし、一方で日本の警察でも現場に行けば、かつて拉致と思われる事件を上に掲げたら握り潰されたという話を聞いたのは一度や二度ではありません。

また 9.17 第 1 次小泉訪朝の折、政府は家族に「5 人生存、8 人死亡」という情報を確定情報として伝えました。そして、マスコミへのリークなどを行い、「死亡」を既成事実化しようとした。また、一昨年 3 月に特定失踪者山本美保さんの件について山梨県警が発表した「山形の漂着遺体と DNA が一致した」との発表も、その後出てくる遺体の体格や遺留品などの情報は、どう考えても別人の遺体であるのに、警察は「山本美保が自殺した」という理由を探すのには熱心でも、疑問を解くような事実は一つも発表していません。その二つのことに直接関わった唯一の人間として、私は国家権力というものを無批判かつ思考停止状態で信じるのはいかなる時代でも危険だと、体験を通して実感しています。

ともかく、この問題は明確な主権侵害であり、現在のような事件捜査と外交交渉、そして裏取引だけでは絶対に拉致被害者をとりかえすことはできません。解決とは全被害者の帰還であり、それ以外の一切の妥協はすべきではありません。ここで妥協をすれば、現在の被害者の問題に留まらず、日本の安全自体が危機に瀕することになります。「改革」をするなら、まさにこの部分こそが改革すべきことです。

全然別の話ですが、先の大戦で、昭和 17 年 6 月のミッドウェー海戦での敗北を隠してしまったことは、大きな過ちでした。それまで日本軍は比較的正確にこちらの損害も伝えていたといいますが、ミッドウェーでの大敗北に驚いた海軍首脳は、これを徹底して隠蔽します。「国民の士気に影響する」とかいう理由をつけたのでしょうが、それ以上に、責任の大きさの余り、誰もその責任を負おうとしなかったことが最大の原因だと思います。陸軍も、トップは知っていたのですが、普段喧嘩をしている割にこういうときは口をつぐんでしまいました。

そして一つの嘘はまた次の嘘で覆い隠さねばならず、またその嘘は次の嘘で隠さねばならなくなります。その結果がああ敗戦です。もちろん、戦時中ですからどんな国でも情報統制は行われますし、そもそも「歴史のイフ」と言ってしまうばそれまでですが、あのとき日本のおかれた状況を、ある程度でも国民が共有できていたら、その後の選択ももっと違ったものになっていたのではないかと悔やまれます。私は拉致問題に関する政府の不作為も同様のものがあっていたと思っているのですが、昨年末からの報道を見ると、このミッドウェーの敗戦後とフラッシュバックしてくるのです。杞憂であって欲しいとは思いますが。

僭越ながら、このニュースを読んでいるジャーナリストの方々に切にお願いします。垂れ流されるリーク情報だけを無批判に報道することは、ジャーナリズムの自殺行為です。それが私たちにとって有利な情報か、不利な情報かはどうでもいいことです。あるいは明

らかになることで私たちが否定されることがあるかも知れません。しかし、真実を追究していれば大きな過ちは避けることができるはずです。ジャーナリストの皆さんが自分の目で見、歩いて掴んだ情報をしっかり精査するという当たり前のことを、もういちど原点に戻ってやっていただきたいと思います。先人が血のにじむ努力をして築き上げ、そしてまた次の世代に渡していかなければならない、日本を、この自由な社会を守るために。

[調査会 NEWS 346] (18.2.28)

古川さん認定訴訟進行協議について

法律家の会幹事 川人博(調査会常務理事)

2月27日11時から12時まで、東京地裁で古川さん裁判の進行協議が非公開で開かれ、原告側は竹下さんと弁護団7名が出席した。被告側は、原告側に対して、口頭で、

- 1 先の日朝協議で、古川さんを含む特定失踪者の方のリストを北朝鮮側に示し、回答を求めたこと。
- 2 ご家族の要望があれば、出来る範囲で、この協議について説明すること。

を表明した。

また、裁判所は、原告側に対して判決以外の解決方法があるか検討してほしい旨述べた。これに対し原告側は、裁判を進行させ、証人尋問を実施すべきことを主張するとともに、この進行と併行して裁判所の要請については検討すると回答した。さらに、裁判所は、被告側に対して訴訟進行のために、事実関係の認否等をおこなうように求めた。

今回は、4月12日午後3時、非公開の進行協議となった。弁護団としては、引き続き、証人尋問の実現と拉致認定を求めて活動する所存である。